

# 船 団

第 113 号

特集

俳句と映画

— ミニエッセーと一句

齋藤 隆

水仙やコーヒカステラモーツアルト  
おじいちゃん七草たべたとLINE来る  
卒園や小さき制服脱ぎ捨てて  
春隣跳箱跳べたオノマトペ  
滑るなよランドセル揺れる春の雪  
いざスーパー今日いかなご解禁日  
寒鰯やぶりぶりしたとこ妻と食べ

佐々木 麻里

Eカップです冨一号ぶつつかる  
わっさわさ紅葉も人も叡電も  
馬だつてあくびしてます冬日和  
冬青空われら絵になる老夫婦  
待ち人はどんな人やる初みくじ  
おいおいに春はおいでて逆上がり  
孫どもを叱る尻から梅見酒

## ● 会員作品 ●

佐藤 日和太

マフラーの隣へ伸びるフィラメント  
冬眠の蛇の寝返る休火山  
乳房まで力を入れる凍結路  
初風呂にたっぷり浸かる国の唄  
じゃんけんで負けた大吉初詣  
立春の匂い旧友からの文  
耳たぶのほくろを見せる春の風

塩谷 則子

冬すみれやと笑った赤ん坊  
風櫃フンクイの少年の孤悲春の潮  
恋恋風塵となる猫の恋  
子猫抱く悲情城市の老侠客  
烏雲に戯夢人生を淡々と  
龍天に登る好男好女連れ  
緑の金瓜石「悲情城市」も「沈黙」も

静 誠司

板チヨコは斜めに割れて初氷

長針が「心」を指したように葱

犯人はサンタクロースだとおねしよ

枯木枯木足音足音影影

手も足も出ないだなんてフクロウね

マカロン<sup>3.14</sup>雪だるま

ひとマカロンふたマカロンと春隣

篠原 なぎ

来るはずだ酉年魚座のあの男

うどんはダシだ啜れば鼻水

海鼠も夫も五億年後も今のまま

北窓を開く人間に飽きた朝

春蘭やじじばばモンローあんみつ姫

御湿りを待つ祖母・母・我と土の雛

雪うれし小さき手と口雪コンコ

● 会員作品 ●

清水 れい子

チャプリンのめがねまんまる冬の月

イブの夜のピーピーと鳴く葉缶

年の暮眼鏡ずらして見る世間

思ひ出し笑ひがわたしの初笑ひ

老犬と海を見てゐる三日かな

兄姉の付き合ひ三寒四温かな

冬あかね画鋏の穴にまた画鋏

白川 由美子

西向きの雲に尾っぽがはえてるぞ

間が抜けた会話成り立つ夏の朝

外出は指差し確認夏の午後

秋の暮れ豆球買いに走り出る

山奥の墓地のお参り散り紅葉

おでんだよくもった眼鏡で箸をとる

寒空に保育園児の声はじけ

坪内 稔典

二月某日鶏卵と動乱と

二月だし雑木林の道選ぶ

クロツカス窓辺にあって沖に船

立春の沖にひよっこり貨物船

貨物船船長室のクロツカス

立春の友だち土を踏んで来た

芽は尖るデルタの葦も少年も

鶴濱 節子

内緒だが海鼠を脱皮今は牛

夫婦して時に漂流葱買うか

手のひらに男ころがし冬夕焼

わたし今発酵中よ春隣

日脚伸ぶコントラバスは横になる

余寒なお片方の顔落したわ

さりさりと小瓶の中の春が鳴る

● 会員作品 ●

寺田 伸一

火星語がペラペラなんて初夢ゆめかしら

七色のパパの眼鏡を雪だるま

四面楚歌そうかそうかと寝正月

六日のね句会は少し酔ってから

虚子の句のB面は愛小春の日

モーロクとセーシユンの微差春二番

春は来るロールキャベツを真似てほら

寺田 良治

絶妙のスローカーブね風花す

会議室に忘れた手袋事件めき

妙案のふくらんでくる牡丹雪

新人のくちびるいろいろさくらんぼ

冬暖かいろんな医者と仲良しに

発明の朝はさりさり雪食べて

けん玉のどこか埴輪で冬青空

長沼 佐智

音は何冬將軍が立っていた

無口ですうつむいてます冬薔薇

馬出しの馬の目の色虹の色

梅雨晴の寄り道こっち忠魂碑

ずっと来てさっさと消えてかいつぶり

大寒の苦笑微笑卵焼く

友達がいない二月の木をたたく

中原 幸子

慈姑に芽まだだまだだまだだ

梅活けて心ころころすなおな日

春の宵逃げ足のふと美しき

ゲンなおす母のシヨールに頷うずめ

神つてること梳ること師走

おにぎりと冬のうららと円を描く

人生の帳尻ブーツはフアスナーで

## ●会員作品●

南北 佳昭

はるさめやきょうのパスタはアルデンテ

真実の口よりころり春キャベツ

胸底に30 Kw春風発電所

かぐや姫また出奔す春の月

芽キャベツの二列縦隊止まれ止まれ

寒の月これより左黄泉の国

寒月光朽ちかけの舟濡れている

西村 亜紀子

微熱あり立春の土くろぐろと

待春や放牧されるオットセイ

消えそいで消えない落書ホーホケキヨ

寒椿母似の乳房と薬指

やまもりのミモザサラダを雨水の日

さつきのは露の姑だったかしら

春スキー直滑降で君を待つ

東 英幸

冬の日に水が欲しくて水を買う  
十二月十四日の日の出新聞匂う  
四十七個餃子を食べる雪の夜  
だんまりの冬雲原子力本部  
千代田区で林檎が風邪を引いている  
フクロウのジャージーな夜のニューヨーク  
樽の実新刊は十円易者の話

火箱 ひろ

ぶらんこぶらんこ冬まで漕げばおじいさん  
ゴロスケホー皇宮警察管轄外  
スーパームーン梟の巣を照らす  
冬の金魚さみしがりやの声拾う  
唐揚げの夜はタヌキの親子くる  
重鎮の前歯欠けたる御慶かな  
ニワトリのまさひろ君も四日かな

● 会員作品 ●

陽山 道子

冬菜抱くかなたに白い波の海  
トコトコとトコトコ歩く山に雪  
わが四日山の辺の道うろつくよ  
初恋はオカメインコの頬に似て  
五郎助ホーああそうかいという伝言  
母居ますこの段畑の春の風  
豆の花南予なまりの飛び交って

平林 ひろこ

立葵洞窟覗く子供たち  
鉄線花指先しなう女方  
合歓の花昔はあった休火山  
小骨刺さる話の後のラ・フランス  
黄落や銀の飾りの漆胡瓶  
虎眠る大草原の上の月  
冬うらら武人埴輪の楯円の目